

武士の思い立田の山紅葉
丹しき衣ずしてなど帰るべき

(敬幹)

元治元年(一八六四)三月、
新島襄、快風丸にて函館へ向
う途でよんだ一句。

武士の思い立田の山紅葉
丹しき衣ずしてなど帰るべき
敬幹